

令和6年度 特別支援学校教務主任・学部主事研修会

5月30日に、県内の特別支援学校の教務主任・学部主事を対象とした研修会を実施しました。

研修会では、講話や講義、実践発表、協議を通して、本県の教育行政上の基本的事項や教務主任・学部主事の役割、学校マネジメント等について学び、教務主任・学部主事としての資質の向上を図りました。

はじめに、特別支援教育課長より「教務主任及び学部主事に期待すること」と題して講話がありました。続いて、特別支援教育課主任管理主事より、「教務主任及び学部主事の任務と役割」について講義がありました。講話や講義を通して、「児童生徒のために、同僚と『対話』を通した授業づくりや学校づくりをすることの大切さ」、「教職員一人一人が力を発揮できるように、組織力を向上させることの大切さ」を学ぶことができたようです。

実践発表では、あぶくま支援学校教務主任の笹山清美先生より、学校経営・運営ビジョンの具現化に向けた取組や校務運営の円滑化及び教育活動の活性化に向けた取組について、発表していただきました。受講者は、新たな視点をもつとともに自校の取り組みを見直すきっかけになったようです。

協議では、「校務運営上の課題と教務主任・学部主事として配慮していること」をテーマに、校務運営上の課題の背景・要因について考え、その改善策についてアイデアを出し合いました。



講話



講義



協議

研修者からは、「教務主任・学部主事として大切にしなければならないことや、学校運営・経営ビジョンを具現化するために具体的に動かなければならないことを自覚することができた」、「組織全体を考え、見据えて行うことの大切さを感じた」、「今、現場で必要なのは、『対話と共有』を効率的に行うことだと思った」といった感想が寄せられました。

本研修を通して、研修者は、これまでの実践を振り返るとともに、一人一人が自分の役割を再確認し、今後、取り組んでいきたいことを明確にすることができたようです。